

樹心（人となる）

菩提樹（大谷中学校通信）

2014年度11・12月合併号

報恩講（中学生・高校2年生が本山「東本願寺」に参拝）

宗祖親鸞聖人の御命日が11月28日であることは皆さんご存知かと思いますが、大谷中高では毎年、本山が行う御正忌報恩講期間（11月21日～28日）に学校報恩講を行います。例年、中学生と高校2年生は本山に参拝することになっています。今年は11月21日（金）に行いました。修復中の阿弥陀堂前を通り御影堂に入室し親鸞聖人の前で礼拝、合掌しました。堂内で、参拝記念品（「あかほんくん」の付箋）が代表生（3年生の飯島君）に手渡された後、本山の方からのお話がありました。「私が私のままで100点満点」という言葉は生徒たちにどのように届いたのでしょうか…。

なお、校内においては、高校1年生は午前9時から報恩講を行い、高校3年生は午前10時半から生徒・教職員物故者追弔会と併せて報恩講を行いました。この日は大谷中高の生徒・教職員全員が報恩講に参加しました。そして、それぞれが生まれた意義と生きる喜びをしっかりとかみしめました。

平和学習・民泊体験・文化体験・マリン体験、 4日間しっかり学びました！

今年もⅡ年生が沖縄校外学習でしっかり学びました。現地の様子を引率教員が大谷のホームページにアップしてくれましたので、生徒達が喜んで体験していた様子はおわかりいただけたと思います。彼らは喜びだけでなく、沖縄の人々が願っている平和についても共有してくれたと思います。「ひめゆり平和祈念資料館」や「辺野古基地テント村」など平和について考えさせられる数多くの場所に行きました。今回、私は一緒に行きませんでしたが、帰ってきた彼らの話や引率教員からの報告を聞くと、しっかり学んできてくれたと言い切ってもいいでしょう。本当にいい体験をしてくれたと思っていますし、校外学習として沖縄を選んでいるのが正解であったと再度認識できました。

（写真上から「バナボート」「辺野古基地キャンプシェワ」「平和の礎」）⇒



昨年のⅡ年生(現Ⅲ年生)が沖縄を訪れた際に書いた感想が現地の雑誌に載りました。

アメリカ人はどう思っているのでしょうか

大谷中学生(14歳)

「戦争」ってなんのためにやるのか、本当によく分からなかった。自分たちで始めて拳銃などを金をかけて作り、そして死んで悲しむ。なんでなんのためにと、何回も思いました。なにもしなければ、なにもならない。いやらしく言うと、お金もかからず人も死ななくて、ただ普通…。そして今、何の教訓もない、基地もあるし…。

話は変わりますが、アメリカ人はどう思っているのでしょうか。絶対に殺したいとは思っていないはず。双方が嫌と思っているのにやって人を殺し、なんの得もないのに、なぜするのか…。本当に分からない。意味の無いことばかりしている。そう強く思いました。これからはぼくらがこれからを考え、伝えていこうと思います。決して今の日本をつくった大人にならないように。(「感想文集 ひめゆり」第25号より)

3学期の行事予定は、成績表と一緒に行事予定表をお送りしておりますので、ご確認ください。なお、3学期始業式は1月8日(木)ですが、その前日の10時から修正会(しゅしょうえ)を本校講堂で行いますので、お子様と一緒に是非お参りください。

生徒会執行部発足後、早速活動(全校集会など)してくれています。部員を紹介します。

生徒会々長	Ⅱ年1組	片岡 磨香さん	副会長	Ⅱ年3組	河合 拓磨くん
文化委員長	Ⅱ年3組	岡田 高明くん	副委員長	Ⅰ年2組	金山 泰輝くん
図書委員長	Ⅱ年1組	井上 花音さん	副委員長	Ⅰ年3組	南 美穂さん
美化厚生委員長	Ⅱ年1組	前川 碧里さん	副委員長	Ⅰ年2組	中田 知良くん
保健委員長	Ⅱ年2組	細井健大朗くん	副委員長	Ⅰ年3組	森 結佳子さん
体育委員長	Ⅱ年3組	岩浅 友太くん	副委員長	Ⅰ年3組	金澤 一紗さん
生徒会執行部書記局庶務	Ⅰ年3組	永谷 春奈さん			

前執行部同様に彼らもまた、大谷のために学校を盛り上げてくれます。他の生徒達も、彼らに協力してくれるはずです。保護者の皆さんも応援くださるようお願いいたします。

《お詫び》前号(10月号)で、生徒会副会長の名前を間違った漢字で書いてしまいました。河合君をはじめ関係者の皆様、大変申し訳ありませんでした。この紙面をお借りしてお詫びと訂正を申し上げます。

2学期は終業式(12/15)をもって終わりました。どの学年にとっても大きな変化と飛躍の2学期だったのではないのでしょうか。1年生にとっては、学校にも慣れ大谷生としての自覚ができた時期、2年生にとっては、3年生が引退した後のリーダーとしての自覚が芽生えた時期、そして3年生にとっては、高校へ向けての意欲が表れた時期だったと思います。3学期は学年の最後の3ヶ月です。私たち教員も彼らにとって悔いの残らぬ学年末になるようバックアップしていきます。保護者の皆様におかれましても、子供たちを常に応援して下さるよう宜しくお願いいたします。

文末になりましたが、保護者の皆様にはご自愛くださって、どうぞ良い年をお迎えください。そして、来年も宜しくお願いいたします。(大橋)